

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2015.7.21

京大病院医療安全情報71

【検査・処置時の鎮静剤使用指針第1.0版ができました】

皆様のご希望にお応えして、安全管理マニュアル（Web版）をカラーにしました。あわせてご確認ください。

他院事例「2歳の男児に対する頸部嚢胞性リンパ管腫の術後死亡事例」

プロポフォールの長時間投与が死因に直接関連した可能性が高く、プロポフォール注入症候群が直接死因と考えられる。

<本事例の解説>

プロポフォールは、小児の人工呼吸中の鎮静薬として用いることは禁忌とされている（海外で小児への使用事例で死亡の報告があり、いずれも長期の使用であるということがわかっているためである）。一方で、検査・処置時の鎮静などの短時間での使用が禁忌となっているわけではない。

当院事例

プロポフォールを検査中の鎮静薬として、成人の患者に対して使用した際に、毛細血管漏出症候群によると考えられる肺水腫、血管内脱水による低容量性ショックをきたした。

2013年、小児科学会などから、「MRI検査時の鎮静に関する共同提言」もなされている。鎮静のリスクを想定し、患者・家族への説明、急変対応などが提言されている。

いつもと同じように使っていても、鎮静薬使用時に思いがけず合併症が発生することもあり得ます。事故発生時には速やかに医療安全管理室にもご連絡ください。院内専門家とともに、初期対応を一緒に考えます。

検査・処置時の鎮静剤使用指針を 作成しました

検査・処置時の鎮静剤使用指針

第 1.0 版

検査・処置時の鎮静リスク管理WG
2015年6月17日

第 1.0 版のポイント

本指針は、検査や処置を安全に実施するために使用される鎮静剤が、適切に使用できるように、管理の原則を定めたものである。
なお、本指針では人工呼吸中の鎮静管理を扱わない。

マニュアルは完成時点で、「古く」なります。現場からの要望に応じて改訂していきますので、「マニュアルに書いていませんが、うちの部署でも鎮静剤を使っていますよ」というお声をお聞かせください。

鎮静剤の使用方法や患者の管理等について、不安や不明な点があれば教えてください。

目指しているものは、患者さんの安全と職員の安心です。

1.3. 患者管理に必要なモニタリング

- 現場に鎮静を担当する医師または看護師が居て、絶え間なく看視する（ただし、耳鼻科外来での聴覚検査室では、付添い者による呼吸状態の十分な観察を行うこととする）。
- 意識レベルのチェックは声掛けや身体刺激に対する応答で行う。
- 酸素化のチェックは皮膚、口唇などの色及びパルスオキシメータで行う。
- 換気のチェックは胸郭の動き、呼吸音を監視し、とくに上気道閉塞に注意する。
- 循環のチェックは心音、動脈の触診、パルスオキシメータの脈波のいずれか一つを監視する。
必要に応じて、心電図モニタの装着、血圧測定（原則として5分間隔）を行う
- 換気のチェックは視診に依存しており、生体情報モニタを注視しているだけでは換気不全の発見が遅れる。**看視対象は患者であって、生体情報モニタではない。**